教育目標「心豊かで、たくましく生きる児童の育成」 ～よく学ぶ子　思いやりのある子　たくましい子～

令和6年度 渋川小学校 学校だより　　令和7年2月17日

かしの木　第17号

「祝　受賞」　うれしい報告です

今月、うれしい賞を２ついただきました。

１つ目は、市の研究物に応募した、渋川小の先生方の研究論文が「優秀賞」をいただいたことです。子ども達に「わかる授業」「楽しい授業」をしようと、先生方は日々、授業力向上のため、研究を行っています。“こんな風にしたら良いのでは”“ここはこうした方が良かったかも”……。日々、悩みながら、相談しながら、努力している先生方。それを認めてもらえた今回の受賞。本当にうれしく思います。

学校賞と合わせて、個人でも中塚先生が、奨励賞を受賞しました。

（総出品数が30点を超える今回の研究物。優秀賞、奨励賞が5点ずつしか選ばれないということを考えると、先生方の頑張りを感じ取っていただけるでしょうか）

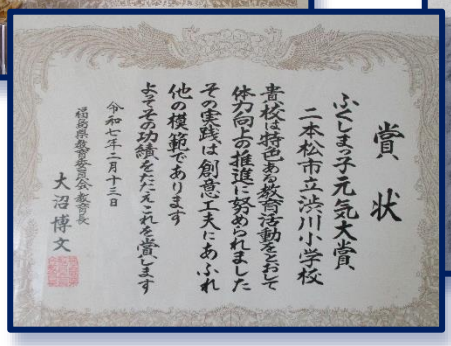
そして、２つ目は、県主催の「健康・体力づくり」の取組について、渋川小の実践が認められ、「元気っ子大賞」を受賞したことです。

元気いっぱい、明るく素直に育っている子ども達の様子や頑張りをまとめて、応募しましたが、こちらも本校の取組を評価していただき、大賞受賞６校の１つに選んでいただきました。こちらもとてもうれしく思います。

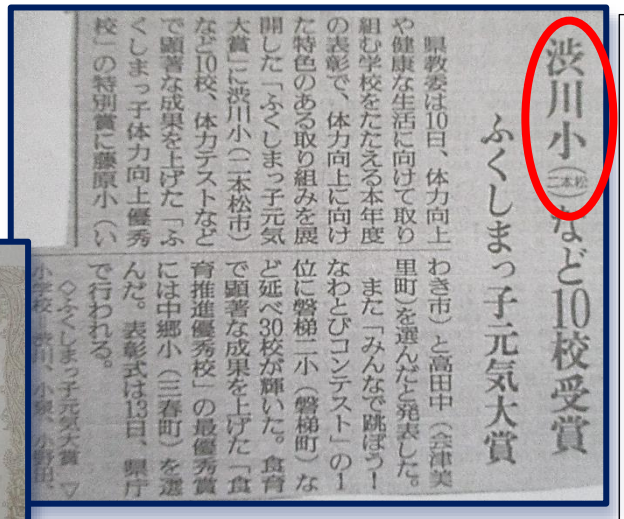
保護者の皆様、そして、地域の方々のご理解・ご協力をいただきながら、学校全体で行っている教育活動。

これまでの積み重ねと、新たな取り組みへのチャレンジが確実に実を結んでいることを感じ、本当にうれしく思います。

今後も、家庭と地域、学校がしっかりと手を携え、子ども達のためによりよい教育活動を進めていきたいと考えております。今後もどうぞよろしくお願いします。



※市の教職員研究物「優秀賞」の賞状とトロフィー（上）と「ふくしまっ子元気大賞」の賞状（下）


渋川小（二本松）など10校受賞
ふくしまっ子元気大賞

県教委は10日、体力向上や健康な生活に向けて取り組む学校をたたえる本年度の表彰で、体力向上に向けた特色のある取り組みを展開した「ふくしまっ子元気大賞」に渋川小（二本松市）など10校、体力テストなどで顕著な成果を上げた「ふくしまっ子体力向上優秀校」の特別賞に藤原小（いわき市）と高田中（会津美里町）を選んだと発表した。

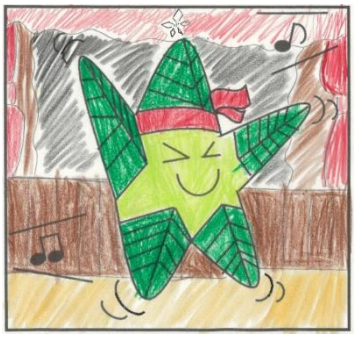
また「みんなで跳ぼう！なわとびコンテスト」の1位に磐梯二小（磐梯町）など延べ30校が輝いた。食育で顕著な成果を上げた「食育推進優秀校」の最優秀賞には中郷小（三春町）を選んだ。表彰式は13日、県庁で行われる。

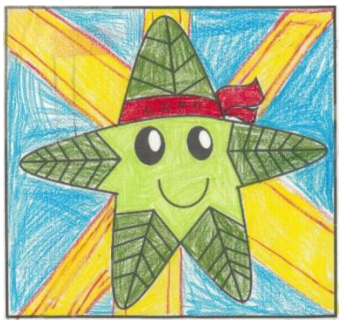
◇ふくしまっ子元気大賞▽小学校＝渋川、小泉、小野田、

※　2月11日の民友新聞に掲載されました。掲載されていることもすぐに保護者の方に教えていただきました。本当に嬉しいです。

〈渋川コミュニティ・スクール〉 －「しぶたん　塗り絵コンテスト」－

渋川小学校のマスコットキャラクター「しぶたん」。
企画委員会が企画をして、今回「塗り絵コンテスト」を実施しました。
絵柄は２種類。
好きな絵柄を選んで、自分がイメージしたシチュエーションで、自由に色を塗っていきます。
どの作品も力作ぞろいで、素敵な作品ばかり。
楽しそうなしぶたんが上手に表現されていました。
（全作品の中から、企画委員が審査を行い、「アイディア賞」や「学年賞」など、各種の賞が決められ、表彰されるようです）





今後、企画委員会では、「しぶたん似顔絵コンテスト」の実施を予定しているようです。

最近、各委員会がアイディアを出しながら、積極的に活動を進めています。
楽しい渋川小学校にしていくために、どんどんアイディアを出しながら、これからも楽しく、ワクワクする活動を進めていってほしいと思います。

※　図書委員会の子ども達が下級生に「読み聞かせ」を行いました。
うれしそうに話を聞く、子ども達の姿がとても印象的でした。

校長の独り言

「おーーーー」「あーーーー」。渋川小では普段聞くことの無い、うなり声のような、叫び声のような低い声が職員室に聞こえてきた。　子ども達の声には間違いはないのだが、一人二人の声ではない。集団で発している声。「ただ事ではない！」一気に緊張感が高まった。ドキドキした気持ちに喝を入れ、怖じ気づきそうになる気持ちを奮い立たせ、職員室を出た。
（近い！　声の先は1階！）どうやら理科室の方だ。進んでいくにつれ、だんだんとうなり声は大きくなっていく。極度の緊張感。　「行くしかない！」
意を決して理科室に飛び込む。
ん？　　クラブ活動？　科学クラブの子ども達？
「あっ、校長先生」。　特に驚きもせず、平然とした表情で、紙コップに吹き口をつけて、そこに向かって、「おーーー」「あーーー」と息を吹き込んでいる子ども達。　紙コップの上に載せたバネ上のモール（針金）を音の振動で、回す実験。
「良かった……」　力が抜けた。
そんな私の安堵を知ってか知らずか、地の底を這うような「あーーー」「おーーー」は止むことなく続く。実験、研究に余念がない子ども達。
紙コップの上では、モールが規則正しいリズムでくるくるくるくると回転していた。